

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	グループホーム ふれあい小樽・稲穂(2F)		
所在地	北海道小樽市稲穂1丁目1番1号		
自己評価作成日	平成25年12月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172001018-0
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所は、職員の資格取得や研修会参加に対し協力的であり、多くの職員が向上心をもって参加することが出来ている。
・ホームの立地条件を生かし、利用者それぞれに合わせた買い物や外食など、外へ出る機会を多く持つように努めている。(意思の尊重に努めている)
・入居者さんの出来る事(作業)を日常の中で可能な限り取り組み、実施している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 11 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に密着した関係作り、家族との交流による絆の大切さを法人、そして現場であるホーム職員が一体となって取り組む姿勢が顕著に見ることができるホームです。幼稚園児、小学生、更には地域の深い理解に支えられて、職員が自ら作った理念「ふれ合いを大切に、笑顔溢れるホームづくり」が着実に実践されている様子が視えます。担当職員から家族の元へ送られる「おたより」は、利用者の日々の暮らしと共に会話の様子が手に取るように温かく記載されています。ホーム内での事故を防止するため、「ヒヤリハット」の詳細な記載が眼を惹きます。大きな事故に至らないよう些細な気付きが記され、職員皆んなで対応を共有する気構えがしっかりと見ることが出来ます。また、新しい職員への指導では、細やかで見やすい業務マニュアルが作られ、一日の業務が分かりやすく説明がされています。法人では職員のスキルアップと意思の疎通を図るため、自己評価を実施しながら「あるべきホームづくり」に邁進しています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの職員全員で新しいホーム理念を作り上げたが、未だ全員に浸透されておらず、意識付けに未だ弱さがあり、強化が必要である。	従来の理念は、少し長文であり新しい職員には難解な面があったため、「ふれ合いを大切に、笑顔溢れるホーム作りをしよう」との明解かつ原点に返った理念を職員間で作り、日々のサービス向上に生かすこととして努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、町内会に加入、食事会参加や、火災訓練等で地域の住民の協力は得られている。近隣の飲食店を積極的に利用し、顔馴染みの関係作りに役立っている。	小樽の名物となっている寿司店が多く立ち並ぶ「寿司通り」の中にあって、地域の方々の理解が厚く、町内会の行事にもお誘いを受けるなど交流が盛んに行われています。小学生、幼稚園児との交流も益々盛んになっています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を活用して、理解や情報などお伝えしているが、地域の人々に向けて積極的な活動は出来ていない。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(3ヶ月に1回)に行っており、会議では事業所からの報告、参加者からの意見、要望を聞きサービス向上に活かしている。	地域の方や多くの家族が参加する会議となっています。市との申し合わせで3ヵ月毎の試行開催となっていますが、「スライドショー」の活用によるビジュアルな方法を取り入れ、利用者の笑顔を見ることができるよう工夫されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談し、指導を受け、協力関係を築くよう努めている。	市の担当者とは、介護保険全般にわたる相談及び指導を受けており、円滑なホーム運営に協力を頂いています。今後は外部評価で得られた内容や取り組むべき課題などの情報を伝えながら連携を図ることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み、ミーティングの中でも報告、話し合いの機会を設け、意識付け強化に努めている。	度々の研修成果が職員の全てに良く普及され、身体拘束のないケアが日常のサービスに表われています。身体拘束防止に関する委員会で話し合いが繰り返し行われ成果を挙げています。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待の外部研修の報告会行うなど、話題にして、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んでいる職員はいるが、まだ職員全員が理解している状態ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者や家族にも参加して頂き、その中での意見など、真摯に受け止め、運営に反映するよう努めている。	利用者及び家族の多くが出席する運営推進会議は、意見交換の良い場面となっています。日常の家族の訪問や電話での会話も「個別日報」に記載され、共有が図られホーム運営に反映されています。今後は「意見箱」の一層の普及と啓発を工夫するなど利用の効率化を図ることとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の間での意見交換をする機会は少なく、運営に反映される機会はあまりないが、管理者が間に入り、職員の意見を報告、徐々にではあるが、反映されている部分も出ている。	法人では、現場での職員の意見や要望を運営に取り入れるため、ケア事業部の職員などを現場に派遣し法人内でのコミュニケーション作りが始まり効果を上げています。現場経験の深い管理者及びフロアリーダーの積極的な会話により、職員の意見や要望、また提案を聞きながらホーム運営に反映させるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に向上心を導き出せるような体制が不十分ではあったが、見直しを進め、現在改善に向け、始動開始した状況であり、今後とも就業環境の改善に向け、努力を続けていく体制である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若者チャレンジの導入や、研修の参加も積極的に取り入れ、なるべく多くの職員が参加できるよう時間調整も対応しているが、得た物を全員に浸透する過程においての体制作りが不十分であると言える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を実践しており、その中で知った、得た情報をサービスの質向上に役立てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態や思いに向き合い、本人が安心するような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から要望等をしっかりと聴き、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から本人、ご家族の思いや状況を把握し、必要としている支援の提供が出来る様努めている。医療や外出支援にも意思を尊重し、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で、一緒に楽しく、穏やかに過ごす時間、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事等を伝えたり、ご家族をホームの行事にお誘いしたりして本人を支えていく関係を築いている。状態の報告も変化に応じ、こまめにお伝えするよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院など、馴染みの場所へ行き続けられるよう努めている。又、手紙、年賀状、電話連絡等、関係が途切れないように支援している。	いつも馴染みの八百屋さんの店先での挨拶、美容院、喫茶店などの馴染みのコースの散歩、また、市の名物「潮祭り」の踊りには、近所の方が店先に観覧席を特別に用意して下さるなど、利用者にとって馴染みの楽しい時間となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係には常に気を配りトラブルの兆しが見えた時点で対応している。トラブルが発生した時は職員が関係修復に努め支援している。また、一緒に作業を行う中での関係作りにも取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人、ご家族の相談や支援に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気無い会話や行動、表情から思いや意向をくみ取り職員間で情報交換し把握に努めている。	職員は日常の暮らしの様子をモニタリングする中で、利用者の意向や思いの把握に努めています。また、担当職員を交えたリーダー会議では利用者個々の情報を共有しながら把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族からお聞きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、主治医の意見を取り入れ、会議などで職員同士で話し合い介護計画を作成している。	個別の日報や受診記録に主治医の意見を取り入れたケアプランの見直しが行われ、家族への説明や意見の聴取も行われています。家族が遠方の場合は計画の送付や電話での説明もしっかり行い、出来るだけ家族の意見を反映できるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報にケアの実践、結果等を記入し全職員が情報を共有する体制になっており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院、外出等必要な支援や対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な支援は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、利用者それぞれのかかりつけ医に相談指示を仰ぎながら関係向上に努めている	従来からのかかりつけ医への受診は、利用者及び家族の要望を踏まえて継続受診ができるよう支援しています。また、かかりつけ医はホームへの往診もして下さり、家族の安心と信頼を得ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等を報告し相談しながら指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会に行き病院関係者から利用者の状態を聞き取り関係作りに努めた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ご家族、病院に伝え話し合いを行っている。それぞれの立場を理解し支援に努めている。	医療連携体制は採用していませんが、重度化や終末期に対応した事業所の方針は家族にしっかりと伝えられています。家族と医師を交えた会合が度々行われており、職員が行うターミナルケアへの移行も自然体の中で進められています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し職員全員が普通救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、地域住民やご家族の協力を得て避難訓練を行った。ホームでも定期的に避難訓練を行っている。	昨年の取り組み課題である、夜間想定避難訓練及び災害時に対応した備蓄品の備えは、いずれも解決されています。昨年、隣家でぼや騒ぎがありましたが、職員及び利用者が落ち着いて対応できたことも特記に値します。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。	利用者に接する職員は、利用者個々の状況を把握しながら言葉掛けに配慮しています。そこには利用者の人格の尊重及びプライバシーを損ねない優しさが感じられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ日常生活の中で自己決定出きるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って外出や買い物なども柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や後片付け等、利用者それぞれが出きる事を職員と一緒にやっている。	職員は、冷蔵庫の食材を見ながら献立の工夫が行われています。食材の調達は職員の買出しの他、日常的には業者に配達してもらいます。彩り、メリハリの利いた味付けなどとても美味しい食事の提供で利用者也完食で笑顔がこぼれます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状態に応じて摂取量の調整や言葉掛けによる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力量に応じ仕上げ磨きを介助、声掛け等の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じたりハパン、パットの使用を行っている。	家族らの暮らしの状況を聞きながら、利用者の排泄パターンの把握に努めています。職員はそれとない声掛けの誘導により出来るだけトイレでの自力排泄が継続されるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤服用を調整し、水分摂取、乳製品、運動を取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望やタイミングに沿うよう努めているが100%対応できているわけではない。	週に2回の入浴目標により入浴を楽しんでいただいています。利用者の入浴希望に出来るだけ応えるよう時間、順番などに配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動を促し生活リズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬日誌を活用し、薬の変更等、職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事や気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物、散歩、お寺参り等の外出支援をしている。誕生会では利用者の希望を聞き外食に行っている。	夏季の好天時には、ホーム近辺の散歩や買い物などで外気浴を兼ねストレスの解消に努めています。以前はドライブを兼ねて少し遠くへも出かけていましたが、利用者の体調などにより回数的に少なくなっている現況です。また、家族の協力を得て外出の機会を多くしようとの取り組みも見られます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力に応じ手元に5000円内のお小遣いを所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、年賀状作成支援、職員からの声掛けで電話をかけたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙を作ったり花を利用者と一緒に飾っている。	2階、3階のユニットは同様の配置ですが、居間、食堂に接する職員のコーナーと厨房は、利用者の暮らしに密着感があり気配りにも適しています。壁には利用者の笑顔いっぱいの写真が掲示され、訪れる家族などの目を奪います。共用空間の温度や湿度にも気配りがされています。1階の多目的ホールは日常のエクササイズのほか近隣の幼稚園児や小学生生徒との交流の場として利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり新聞を読んだり思い思いに過ごしているが相性の悪い利用者同士の空間確保には配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた物を持ち込んでいただいている。	居室に設えた収納庫により、居室は整理が行き届いたゆとりある空間となっており、持ち込まれた馴染みの家具調度品の中、居心地の良い安心の暮らしが継続されています。家族から送られた鏡は、車椅子の利用者に適した低い設置が見られるなど家族の温かさも垣間見ることが出来ます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティングで話し合い安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		